

子どもたちの夢を応援する 杉並区次世代育成基金



— 10年のあゆみ —
Since 2012

子どもたちに想いを託し、基金を支える

寄附者

個人・企業、区内・区外を問わず、
多くの方々に基金の趣旨をご理解いただき、
ご支援いただいています。

次世代育成基金は
子どもたちを支える大きな力です。

子どもたちを支え、次代に繋ぐ

大人

希望に満ちた地域や社会を創るために
自らが経験してきた体験や想いを財産として
次代を担う子どもたちに引き継いでいきます。

その手段の1つが次世代育成基金です。

杉並区次世代育成基金

次代を担う子どもたちが将来の夢に向かって健やかに成長できるように支援するための区独自の仕組みです。

【寄附総額】8,976件 1億5,223万8,016円(令和3年度末)

子どもたちに様々な体験の機会を提供する

基金活用事業

日常の学校生活では得られないような体験・交流の機会となる様々な事業を、
区とNPO団体等の民間団体がそれぞれ主催し、毎年実施しています。

次世代育成基金を活用することで、
参加者の経済的負担を
最小限に留めることができます。

次代をつくり、未来を生きる

子ども

基金活用事業に参加することで、様々な体験をし、
世代を超えた多くの人々と交流しながら、
自分の可能性を拡げ、夢や目標を見つけていきます。

次世代育成基金は
自分の力で未来を切り拓ける
子どもを育みます。



杉並区長 岸本 聡子

「杉並区次世代育成基金」は、次代を担う子ども・青少年の国内外の交流やスポーツ、文化・芸術等の事業への参加を支援することで、次世代の健やかな成長を図ることを目的として平成24年度に創設し、皆様のお力添えをいただきながら令和4年度に創設10周年を迎えることが出来ました。こうした制度は他の自治体でも珍しく、区としても杉並区独自の制度としてこれまで大切に育ててまいりました。

子どもたちに向けた想いにご賛同をいただいた方々は10年間で延べ約9千人を数え、総額は1億5千万円を超えるまでとなりました。ご寄附や募金活動へのご協力という形で託された皆様からの想いは、80回以上の事業を通じて、日常の学校生活だけでは経験できない貴重な体験や経験を4千人以上の区内の子どもたちに提供することができました。皆様のあたたかい想いに改めて心より御礼申し上げます。

さて、皆さんの小学校や中学校の頃の楽しい思い出の中には、学校生活以外のもも多く刻まれているのではないのでしょうか。その中には、皆さんにとって人生のターニングポイントと言えるような重要なことも多いと思います。子どもの頃に様々な体験や経験することは、それからの人生の可能性を広げる意味でもとても大切なことであり、私自身にもそうしたいくつかの経験が思い浮かびます。子ども自身が興味を持ったもの、目を向けたもの、そうした次代の宝物につながるきっかけを経済的な理由から手放すことがないようにすることも、この基金の重要な役割の1つです。

現代の私たちが次代を担う子どもたちのためにできることを考え、明るい未来に向けて進むためのバトンを確実に渡さなければなりません。このバトン次世代育成基金という形で引き継ぎ、「支援の循環」として杉並区に根付かせることが、子どもたちが夢に向かい健やかに成長できる明るい未来へと導くことにつながることを信じています。

これからも皆様から託された想いをしっかりと子どもたちに届けていけるよう、この取組を進めてまいり所存です。

次世代育成基金への末永いご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

基金を支える寄附者の声

磯上 武章 様

私は息子が小学1年生の時に杉並区の学童野球チームに入って以来、チームの監督や杉並区軟式野球連盟の理事を務めるなど、長年にわたりボランティアとして学童野球に携わってきました。そうした中で、区では「交流自治体中学生親善野球大会」が行われ、区内の中学生が台湾台北市や福島県南相馬市などの子どもたちと野球を通じて交流をしていることを知りました。

「次世代育成基金」を知ったのは、この大会費用として活用されていたことがきっかけです。こうした取組は、子育ての観点からも区は手厚い政策を進めていると感じましたし、子どもたちに有意義な経験をさせる機会を増やす素晴らしいものだと思います。交流野球のほかにも、学校の部活動に専門的な指導者を招聘するなどこれからも様々な機会を提供してほしいと思います。

私は学童野球に関わってきたことや、杉並区に本店を構える会社を営んでいることから、プライベートでも会社でもお世話になっている杉並区へ少しでも貢献したい、恩返しをしたいという思いから次世代育成基金への寄附を始めました。

杉並区で育った子どもたちが、次世代育成基金によって経験できたことを思い出に、大人になってからも杉並区にずっと住み続けていきたいと思ってもらえるよう、更なる次世代への明るい未来をつなぐために、今後も協力・貢献していきたいと思っています。将来は私の孫もこの基金のお世話になるかもしれません。こういった取組は今後も継続してほしいと思っています。



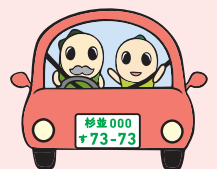
トヨタモビリティ東京株式会社 (杉並ナインオールトヨタ)様

私たちは、地域の皆様や社会のお役に立てる存在でありたいとの思いから、トヨタモビリティ東京の杉並区内9店舗がチームとなり「杉並ナインオールトヨタ」として、店舗周辺の清掃活動など社会貢献活動に取り組んでいます。そうした取組の中で杉並区が行う活動にも何かお役に立てることがないかと、区のホームページを閲覧しているときに次世代育成基金を初めて知りました。

この次世代育成基金の目的でもある“子どもたちの夢を応援する”という言葉に惹かれ、私たちが目指す“自分以外の誰かの幸せを願い行動すること”にも合致すると考え、各店舗において募金活動を行い、寄附させていただくことを決めました。

一人でも多くの方にこの基金や私たちの取組を知ってもらえるように、募金スペースを設置したり、ポスターを掲示するなど、店舗ごとに工夫を凝らしながら、ご来店いただいたお客様に募金活動へのご協力をお願いし、多くの方からご賛同をいただきました。お客様の中では基金の認知度はまだ十分ではないと感じることもありますが、いずれは「赤い羽根共同募金」のように誰もが知る制度となれば素晴らしいことだと思います。

杉並ナインオールトヨタは、未来を創る子どもたちのためにこれからも次世代育成基金を応援させていただきます。



基金活用事業参加者の声

有坂 颯季 さん

(平成24年度小学生名寄自然体験交流事業参加者)

私が小学校6年生の時、家族でテレビドラマ「北の国から」の再放送を観て、北海道の雄大な大自然や、そこで暮らす登場人物に憧れを抱き、北海道に行ってみたくらいという気持ちが芽生えました。ちょうどその時に北海道の名寄市を訪問する「小学生名寄自然体験交流事業」を知り、参加することを決めました。初めて足を踏み入れた夏の北海道。澄んだ夜空に輝く星や、大地に咲くひまわり。あの時、名寄市で見た景色は今でも鮮明に覚えています。

東京での生活では経験することのできない北海道ならではの体験や、たくさんの地元の方々に出会えたことは、私にとって大切な財産になりました。特に、地元の同年代の子どもたちと短い日数の中でも交流を持てたことは、コミュニケーション力を養うキッカケとなる出来事でした。

今の私が経験したことのない世界に惹かれ興味を持って行動に移し、様々な人と出会う場面で積極的に話しかけることができたようになったのは、この事業に参加した時の経験によって好奇心を高められたからだだと思います。こうした機会を与えてくれる次世代育成基金制度はとても大切だと思います。

今のコロナ禍は誰しものが何かを諦めてしまう時期だと思いますが、私は後悔しないように今できることを懸命にしています。小・中学生の皆さんが得られる体験や思い出は、必ず今後の人生に役立つと思います。経験は成長の鍵です。名寄での交流以外でも次世代育成基金を活用した色々な事業があると思うので、一歩前へ進む、挑戦してみるキッカケとして、私と同じように事業に参加してみてもいいでしょうか。

私は現在、小学校の教師になることを目標に日々の勉強を頑張っています。私が様々な体験をすることで成長できたように、子どもたちが成長するために多くの機会を提供してあげられるような先生になりたいと考えています。



中村 柚葉 さん

(平成27年度交流自治体中学生親善野球大会参加者)

私は小学2年生から兄の影響で野球を始め、がむしゃらな熱いプレーに憧れて毎日ユニフォームを泥だらけにしていました。

中学2年生の時に、区内野球大会での成績が認められ、杉並代表チーム初の女子選手として選出していただき、親善野球大会の台湾遠征に参加しました。

当時は女子の選手が珍しかったので「女子でも男子と同じように野球ができる!」ということをとくさんの人に知ってもらえるチャンスだと思い、挑戦したのを覚えています。

台湾遠征では、とてもレベルの高い環境でプレーができたことで私の野球の世界が大きく広がりました。

また、台湾の選手と言葉は通じなくてもプレーを通じて仲良くなることができ『野球は世界を繋ぐスポーツ』だと実感できたことは、私にとって大きな宝物となりました。

今でも、出会った仲間の活躍を知ることや、SNSを通じて台湾の選手とつながっていることがとても嬉しいです。何より、ともに代表チームに選出されたもう1人の女子選手とは互いに切磋琢磨できる最高の親友です。

私は、親善野球大会中に自分らしいプレーが出来ず悔しい思いをしましたが、その経験が野球を続けていく上での力となり「女子プロ野球選手になる」という幼い頃からの夢を叶えることができました。

これからは、女子野球選手の活躍の場を拡げ、野球の楽しさをもっと世界中に伝える活動をしていけたらと思っています。

この親善野球大会が多くの方々からの寄附により開催されていることを参加時に教えていただきました。ありがとうございます。未来につながる支援の輪に、何かの形で私も参加できたら幸いです。

最後に、私はたくさんの方の応援があったからこそ大好きな野球を今も続けることができている。感謝の気持ちを忘れず、ス

スポーツをとおして地域社会に貢献できるプレイヤーになれるようこれからも成長していきたいです。

そして、私がこの次世代育成基金という制度により素晴らしい経験ができたように、子どもたちには勝敗や結果だけにとらわれず何事にも全力で挑戦し、たくさんの方の力を吸収して自分の可能性を広げてほしいと心から願っています。



区主催の基金活用事業

区では平成24年の基金創設時より基金活用事業を定め、その費用の一部に基金を活用しています。基金創設前から実施していた事業や、新たに開始した事業など、これまでに基金の趣旨に合致する8つの事業を対象としており、参加した児童・生徒の総数は2,000人を超えました。

1 国内子ども交流事業「杉並区・名寄市子ども交流会」〈主管課：児童青少年課〉

杉並区の交流自治体である北海道名寄市と杉並区の子どもたちが、お互いの土地を往き来し、異なる文化や気候風土、生活習慣などに触れる機会をとおして、体験の幅や視野を広げることを目的としています。

体験内容：〈杉並区〉阿佐谷七夕まつり見学、日本科学未来館見学 など

〈名寄市〉トロッコ体験、なよろ市立天文台見学、旭山動物園 など

開始年度：平成24年度(※2) 参加対象：小学4～6年生 定員：25名

実施時期：7月(名寄市3泊4日) 8月(杉並区3泊4日)



2 国内子ども交流事業「杉並区・東吾妻町子ども交流会」〈主管課：児童青少年課〉

杉並区の交流自治体である群馬県東吾妻町と杉並区の子どもたちが、お互いの土地を往き来し、異なる文化や気候風土、生活習慣などに触れる機会をとおして、体験の幅や視野を広げることを目的としています。

体験内容：〈杉並区〉江戸東京博物館見学、東京スカイツリー見学 など

〈東吾妻町〉ハツ場ダム見学、マスカみ取り体験、ぐんま天文台見学 など

開始年度：平成24年度(※2) 参加対象：小学4～6年生 定員：25名

実施時期：8月(杉並区及び東吾妻町で計3泊4日)



3 小学生名寄自然体験交流事業 〈主管課：生涯学習推進課〉

交流自治体である北海道名寄市において、寒さの厳しい地域だからこそできる体験や自然との触れ合い、現地の子どもたちとの交流を通じて、生活・文化等の違いを認め合う心や豊かな人間性を育むことを目的としています。実施にあたり事前学習会や学習相談会、学習成果発表会を行っています。

体験内容：国内最大級「ピリカ望遠鏡」見学、スノーシュートレッキング、プラネタリウム鑑賞 など

開始年度：平成24年度 参加対象：小学5・6年生 定員：25名

実施時期：12月(2泊3日)



4 交流自治体中学生親善野球大会 〈主管課：スポーツ振興課〉

杉並区と交流のある自治体の中学生との親善野球大会を行っています。スポーツ交流事業を実施することにより、中学生の健全なスポーツ精神を培うとともに、異文化理解・国際理解を深める契機としています。杉並と台湾を交互に会場として毎年開催しており、これまでに参加する自治体も増え、交流の輪が広がっています。

これまでの参加自治体：台湾台北市、福島県南相馬市、北海道名寄市、静岡県賀茂郡南伊豆町、群馬県吾妻郡東吾妻町、新潟県小千谷市

開始年度：平成24年度 参加対象：中学2年生 定員：30名

実施時期：10月(国内開催時) 12月(台湾開催時)



5 中学生小笠原自然体験交流 〈主管課：済美教育センター〉

世界自然遺産である小笠原村父島を訪問し、貴重な自然体験や自然に育まれた文化にふれることをとおして、豊かな人間性を育むとともに、環境保全活動の推進役となる世界的視野で持続可能な社会を考えることができる生徒の育成を目的としています。実施にあたり事前・事後の学習会や成果報告会を行っています。

体験内容：シュノーケル体験、小笠原海洋センター見学、海岸での清掃活動 など

開始年度：平成24年度(※1) 参加対象：中学生 定員：30名

実施時期：3月(5泊6日)



6 中学生海外留学 〈主管課：済美教育センター〉

交流都市であるオーストラリア連邦ウィロビー市への短期留学を行い、生徒自らが設定した課題の解決に向けた学習を行うとともに、現地の人々との交流をとおして豊かな人間性を培い、国際感覚や英語でのコミュニケーション力を身に付ける等、国際社会において「夢に向かい、志をもって、自らの道を拓く」ために必要な資質の形成を目的としています。実施にあたり事前・事後の学習会や成果報告会を行っています。

体験内容：現地校体験、ホームステイ、課題解決学習 など

開始年度：平成25年度(※2) 参加対象：中学2・3年生 定員：25名

実施時期：8月(13日間)



7 チャレンジ・アスリート 〈主管課：スポーツ振興課〉

オリンピック・パラリンピック種目の体験やスポーツに関連する職場体験を実施することで、スポーツとの関わり方やスポーツの持つ多様な可能性に気付く機会を提供し、「夢に向かって自らの意志でスポーツを選びチャレンジする子ども」を育成することを目的としています。

体験内容：〈オリンピック種目〉バドミントン、サッカー、体操 など

〈パラリンピック種目〉ゴールボール、車いすバスケ、パラ陸上競技 など

〈職場見学〉スポーツ記者、スポーツクラブインストラクター など

開始年度：平成26年度 参加対象：小学生～高校生 定員：150名

実施時期：7月～3月(年間3、4回)



8 広島平和学習中学生派遣事業 〈主管課：区民生活部管理課〉

世界恒久平和の実現と核兵器廃絶の国際世論の醸成・拡大を目指す国際機構「平和首長会議」の総会が開かれる広島市へ中学生を派遣し、被爆の実態に触れるとともに、現地の中・高校生等との交流をとおし、平和の大切さについて学ぶことを目的としています。

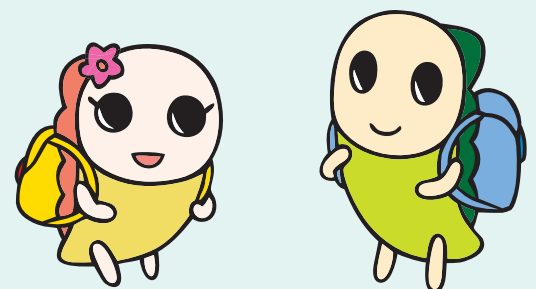
(令和2年度新規計画事業)

体験内容：被爆体験講話、平和記念式典参列、平和記念資料館見学、とうろう流し など

開始年度：未実施(※2) 参加対象：中学2・3年生 定員：30名 実施時期：8月

※記載の実施時期と定員は主なものです。新型コロナウイルス感染症の影響等により年度によって異なる場合があります。

また、(※1)は令和元年度、(※2)は令和2年度、令和3年度の事業を中止しています。



民間団体主催の基金活用事業

(杉並区次世代育成基金活用事業助成対象事業)

民間団体が計画する基金の目的に合致した事業に対して、平成27年度に制定した「次世代育成基金活用事業助成制度」により、その事業費を助成しています。これまでに区では12事業を選定し、その参加者は区主催事業と同様に2,000人を超えています。

1だれでも農村体験プロジェクト

都会育ちの子どもたちに自然と触れ合う機会や他校との交流の機会を持つことを目的に、群馬県みなかみ町で農村宿泊体験を実施しました。

農家に宿泊し、野菜の収穫体験や農作業、農家の人々との交流をとおして、杉並とは異なる環境に暮らす人たちの思いを知り、自分自身やわが町「杉並」を再認識する機会を提供しました。

実施団体：だれでも農村体験プロジェクト実行委員会 実施年度：平成27年度
実施期間：8月(3泊4日) 参加対象：小学4～6年生 参加人数：69名



2 Cedar Youth International Project

英語によるコミュニケーション能力や語学力の向上を図ることを目的とし、直に外国人と会話をする機会を提供しました。

各国の外国人と関わることで世界の国々に興味を持つとともに、日本や自分たちの住む東京について知る機会を提供しました。

ドイツ編では、語学学習やドイツの歴史・文化等について学び、参加者自らによる研修期間中の課題作成など全9回の事前学習の後、11日間の研修旅行を行いました。日本編では、浅草や靖国神社など都内の観光スポット10カ所において、日本に暮らす外国人に対して、英語でガイドを行いました。

実施団体：Challenge For the Future

【ドイツ編 高校生国際交流事業】

実施年度：平成28年度 実施期間：〈事前研修〉9月～3月 〈研修旅行〉3月

参加対象：高校生 参加人数：8名

【日本編 ボランティアガイド・パーティ企画にチャレンジ】

実施年度：平成29年度 実施期間：6月～2月

参加対象：中学生～高校生 参加人数：20名



3サイエンスホッパーズ科学実験教室

人との関わりの中で生涯学び続ける人材を育成することを目的に、身近にある科学から「考えること」「不思議だなと思うこと」を体験をとおして学ぶことができる機会として、生物・化学・天文など各年代が体験できる様々な分野の科学実験教室を開催しました。

【実験テーマの一例】

とんぼ玉づくり、電池のいらぬ傘ラジオ、水中微生物の観察、くだもの電池、フライドチキンから骨を学ぼう など

実施団体：サイエンスホッパーズ 実施年度：平成28・29・30・令和元年度

実施期間：4月～3月(毎月1回程度)

参加対象：小学4年生～高校生 参加人数：各回10～30名程度



4 杉並・テキサス交流プロジェクト

小学生の頃から英語に触れるとともに、外国の異なる文化や価値観を知り考える機会として、英語を使ってのゲームなど、毎回内容の異なる全4回のワークショップを開催しました。アメリカテキサス州の小学生と英語で書いた手紙の交換や交流をしながら、各回のワークショップをとおして日本と外国の違いを学び、様々な国への興味を持つきっかけを提供しました。

実施団体：杉並・テキサス交流プロジェクト実行委員会

実施年度：平成28・29・30・令和元年度 実施期間：7月～2月

参加対象：小学4～6年生 参加人数：50名



5 ユース・ジャズ・プロジェクト杉並2017

プロのジャズミュージシャンの演奏からその技法やリズムの取り方を学び、クリニックで演奏方法を学んだ成果を「阿佐谷ジャズストリート」と「合同発表会」の場でプロと共演して披露するなど、全7回のプログラムを実施しました。また、阿佐谷ジャズストリートに合わせて「ジャズアート」の制作・展示も行い、ジャズの楽しさを伝える機会を提供しました。

実施団体：阿佐谷ジャズストリート実行委員会 実施年度：平成29年度

実施期間：6月～11月 参加対象：小学4年生～中学生 参加人数：延べ515名



6 おぢや寺子屋プロジェクト

新潟県小千谷市において「自分で考えて生きる力を身に付ける」ことをゴールとした宿泊型の体験学習を実施しました。地元の小学生を交えてのサバイバル体験や雪かき体験、作品づくりワークショップや自炊料理選手権など、季節に合わせたアクティビティを行いました。

実施団体：わぐわぐWorks 実施年度：平成29・30・令和元・3年度

実施期間：〈夏編〉8月 〈冬編〉1月 (各回2泊3日)

参加対象：小学5・6年生 参加人数：各回20名



7 小学生わんぱく探検団in糸魚川

新潟県糸魚川市において、化石探しや縄文文化体験の勾玉作り、天体観測等、海・川・山の自然を楽しみながら、人と自然の関わりや自然との共栄・共存を学ぶ宿泊プログラムを実施しました。

実施団体：NPO法人ジャパン・フォレスト・フォーラム

実施年度：平成30年度

実施期間：8月(全2回 2泊3日) 参加対象：小学4～6年生 参加人数：各回20名



8 『ITにふれるキッカケ』～杉並子どもIT Day～

子どもたちが将来自分の生きる道を考える際の選択肢を増やすことを目的に、ITによってできること、学べることの体験の場として、7種類のワークショップを実施しました。

【講座内容の一例】

プログラムでロボットを動かそう、ゲームを使ってアルゴリズムを理解しよう、プログラミングでアニメーションを作ろう、自分のホームページを作る! など

実施団体：ITのキッカケ提供委員会 実施年度：令和元年度

実施期間：7月(全2回) 参加対象：小学4～6年生 参加人数：各回35名



9 Embassy Journey (大使館めぐり)～日本の中の外国へ行こう～

異文化や多様性を楽しみながら学ぶことを目的に、都内にある駐在大使館等を複数めぐ
る機会を提供しました。訪問先では事前学習会で参加者自らが考えた質問を行い、その
結果をまとめ、それぞれが学んだ内容について発表する報告会を行いました。

【訪問先の一例】

レソト王国大使館、カナダ大使館、パキスタン大使館、スウェーデン大使館、
コロンビア大使館、タイ王国大使館、ベネズエラ大使館 など

実施団体：杉並大使館めぐり実行委員会 実施年度：令和元年度

実施期間：7月～8月(全2回)

参加対象：小学4年生～中学生 参加人数：各回12名



10 ボールキッズ取材班夏休みプロジェクト「広報・東高円寺」を作ろう!

言葉で表現する楽しさや文章で相手に伝える力を身に付けることを目的に、オリジナル
情報誌の作成を行いました。2日間をとって参加者自らが地域取材やインタビューなど
を行い、取材した内容を情報誌「広報・東高円寺」としてまとめ、取材地域や区内小・中学
校へ配布しました。

【取材場所】 妙法寺、東高円寺ニコニコロード、和田商店街 など

実施団体：NPO法人マナビエル 実施年度：令和元年度

実施期間：7月 参加対象：小学4～6年生 参加人数：13名



11 杉並EnglishガイドJr.プロジェクト

様々な場面における英語を学ぶことで、コミュニケーション能力の習得や自主性・自己肯
定感を育むことを目的に、英会話を活用する機会を提供しました。

令和元年度は、英語によるボランティアガイドを行うために、ガイドに必要な語学力や表
現方法、ガイドのノウハウを学ぶ全5回のワークショップを実施した後、「高円寺阿波踊
り」の会場で2日間のボランティアガイドを行いました。

令和3年度は、参加者自らが選ぶ区内の魅力あるスポットを取材するなど全10回のワー
クショップを行いました。英語の字幕やナレーションを加えたガイド動画を作成し、イン
ターネットの配信を通じて外国人からも感想を聞くことができました。

実施団体：NPO法人ウィンウィン

【高円寺阿波おどりで英語ボランティアガイドを体験しよう!!】

実施年度：令和元年度 実施期間：6月～9月 参加対象：中学生 参加人数：19名

【杉並区の魅力を世界に配信せよ】

実施年度：令和3年度 実施期間：6月～11月 参加対象：中学生 参加人数：13名



12 プロに学ぶ「吹奏楽ワークショップ」

子どもたちが生涯にわたって「ずっと音楽が好き」でいられるように、大人たちが手助
け、支援をすることを目的に、「後輩を指導できる基本の習得」「フル編成で演奏する喜び」
「他校生徒との交流」を体験する計6回の吹奏楽ワークショップを行いました。

日本フィルハーモニー交響楽団の楽団員をはじめとする、プロが指導する練習機会を提供
し、成果発表の場として、「荻窪音楽祭・みらい夢チャリティーコンサート」に出演しました。

実施団体：NPO法人すぎなみ子どもサポート 実施年度：令和3年度

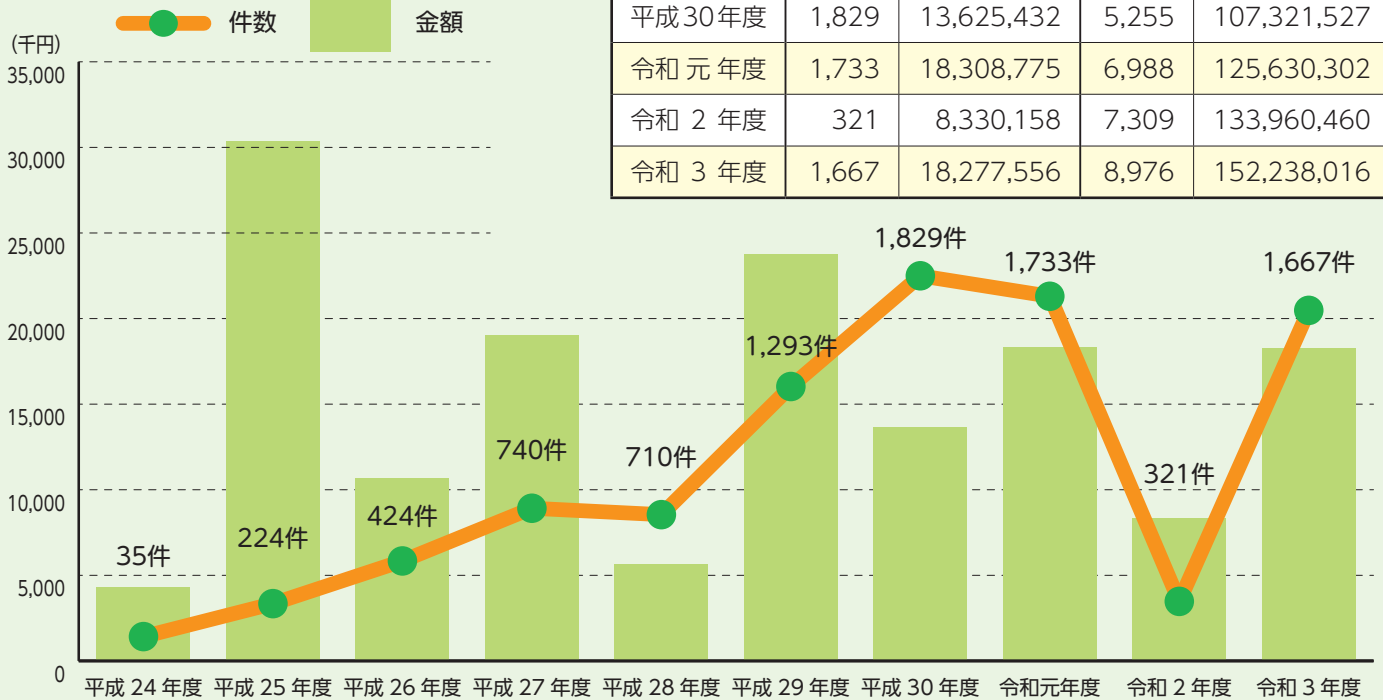
実施期間：8月～11月 参加対象：中学生 参加人数：23名



次世代育成基金の記録

各年度の寄附件数と金額 及び累計件数と累計金額

年度	件数	金額	累計件数	累計金額
平成24年度	35	4,307,876	35	4,307,876
平成25年度	224	30,353,809	259	34,661,685
平成26年度	424	10,654,563	683	45,316,248
平成27年度	740	19,009,210	1,423	64,325,458
平成28年度	710	5,614,487	2,133	69,939,945
平成29年度	1,293	23,756,150	3,426	93,696,095
平成30年度	1,829	13,625,432	5,255	107,321,527
令和元年度	1,733	18,308,775	6,988	125,630,302
令和2年度	321	8,330,158	7,309	133,960,460
令和3年度	1,667	18,277,556	8,976	152,238,016



年度別 事業実施数及び参加者数

実施年度	区主催事業		民間主催事業		合計		累計	
	事業数	参加者数	事業数	参加者数	事業数	参加者数	事業数	参加者数
平成24年度	5	143	—	—	5	143	5	143
平成25年度	6	148	—	—	6	148	11	291
平成26年度	7	188	—	—	7	188	18	479
平成27年度	7	187	1	69	8	256	26	735
平成28年度	7	292	3	447	10	739	36	1,474
平成29年度	7	311	5	867	12	1,178	48	2,652
平成30年度	7	315	4	434	11	749	59	3,401
令和元年度	6	260	7	430	13	690	72	4,091
令和2年度	4	162	—	—	4	162	76	4,253
令和3年度	4	220	3	52	7	272	83	4,525
合計	60	2,226	23	2,299	83	4,525	—	—

※令和2年度の民間主催事業は、新型コロナウイルス感染症の影響で助成を行いませんでした。

杉並区次世代育成基金へのご寄附の方法

専用の払込用紙を使って郵便局(ゆうちょ銀行)からお振り込みいただくほか、クレジットカードや電子マネー等が利用可能なインターネットサイト、担当窓口での現金受領など様々な方法でご寄附いただくことが可能です。

また、区内のイベント会場等では募金活動を行っています。

ご寄附をしていただくと

個人の方はふるさと納税として取り扱われ、法人では損金算入ができるなど税制上の優遇措置があります。

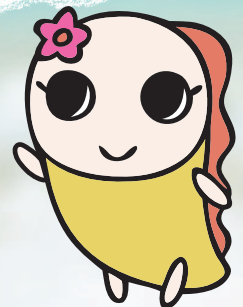
また、ご希望に応じてお名前と寄附額を広報紙などで公表させていただくほか、基金活用事業の報告書をお送りしています。

詳細は区立施設に備え付けのリーフレットをご覧くださいか、児童青少年課青少年係までお問い合わせください。

杉並区次世代育成基金に関する情報は杉並区公式ホームページでもご覧いただけます。



一人でも多くの皆さんからの
ご支援・ご協力をお願いいたします



©SUGINAMI CITY

杉並区子ども家庭部 児童青少年課 青少年係

〒167-0051 杉並区荻窪1-56-3 杉並区立児童青少年センター(ゆう杉並)

TEL: 03-3393-4760 E-mail: JISEDAL-KUSEI@city.suginami.lg.jp